

広報

あいさつ

2026

1

No.252



(巻頭) 新年ごあいさつ

(特集) 昭和から令和へ受け継がれるもの

祝 帝京第五高等学校バスケ部全国大会出場



大洲市長
二宮 隆久

住んで楽しく 誇りに思えるまちづくり

あけましておめでとうございます。市民の皆さんには、輝かしい初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より市政の各分野にわたり、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年、大洲市は市町村合併20周年という大きな節目を迎えた。市民の皆さまとお祝いできましたことは、大変喜ばしく、また改めて、これからも「きらめくおおず～みんな輝く肱川流域のまち～」を目指して、皆さまとともに取り組みを進めてまいりたいと考えています。

さて、昨年を振り返りますと、松山自動車道の伊予ICから内子五十崎IC区間のうち、伊予市双海町上灘から同市三秋間の6.3キロメートルの4車線化工事が完了し、供用が開始されました。松山自動車道は、交通機能の向上、産業や観光など経済の活性化だけでなく大規模災害時の緊急輸送や避難、救急患者の搬送道路（命の道）としても大変重要な役割を担っています。大洲市としても、引き続き社会資本整備の充実・強化に向けた働きかけや取り組みを促進してまいります。

今春には、上須戒コミュニティセンターや肱南地域交流センターが完成いたします。上須戒コミュニティセンターはCLTパネルを用いた、木のぬくもりを感じる建物で、高い強度と耐震性を持ち合わせていることから、より安全・安心な避難所機能を備えた施設となります。肱南地域交流センターにはカヌー艇庫やオープンテラスを設置しており、肱川を身近に親しむことができます。どちらの施設も、人が集い賑わう地域コミュニティの新たな拠点となることを期待しています。

また、5月17日には愛媛県において全国植樹祭が開催されます。大洲市には、豊かな自然をはじめ、臥龍山荘や大洲城など世界に誇ることのできる多くの歴史的・文化的資源がございます。この機会に、多くの方に大洲市の魅力を知っていただきたいと思います。

今年の干支は「丙午」にあたり、「勢いと挑戦を表す飛躍の年」とされております。大洲市におきましては、急速な人口減少や少子化など、さまざまな課題が山積しておりますが、スピード感を持って事業や施策を開拓し、「大洲市に住むことが楽しく、誇りに思えるまちづくり」を推進してまいりますので、引き続き市民の皆さまの一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が、市民の皆さんにとりまして希望に満ちた、実り多き一年となりますよう、心から祈念申し上げます。



大洲市議会議長
新山勝久

令和8年も、皆さまの声とともに

新春の候、市民の皆さんには穏やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から市議会の活動に対し温かいご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新しい年を迎える議会の代表者として、その責任の重さを改めて感じるとともに、大洲市の更なる発展に向けて、市政の重要な意思を決定する機関（議決機関）としての機能を十分に發揮できるよう努力をしていきたいと考えています。

さて、昨年を振り返りますと、本市議会におきましては、議員定数を従来の21人から18人へと見直して初めての議員改選が10月に行われ、新たな体制のもとで大洲市議会が始動いたしました。この議員定数の見直しは、時代の変化に的確に対応し、より効率的かつ活発な議会運営を実現するための重要な改革であります。少人数体制のもと、議員一人ひとりがこれまで以上に責任と自覚を持ち、市民の皆さまの声に真摯に耳を傾けながら、「未来志向のまちづくり」に全力で取り組んでまいります。

現在、我が国が直面している少子高齢化の進行と人口減少は、本市においても避けて通れない大きな課題であります。加えて、地域経済の構造変化、激甚化する自然災害への備え、さらには脱炭素社会の実現など、私たちを取り巻く環境は年々複雑化・多様化しております。

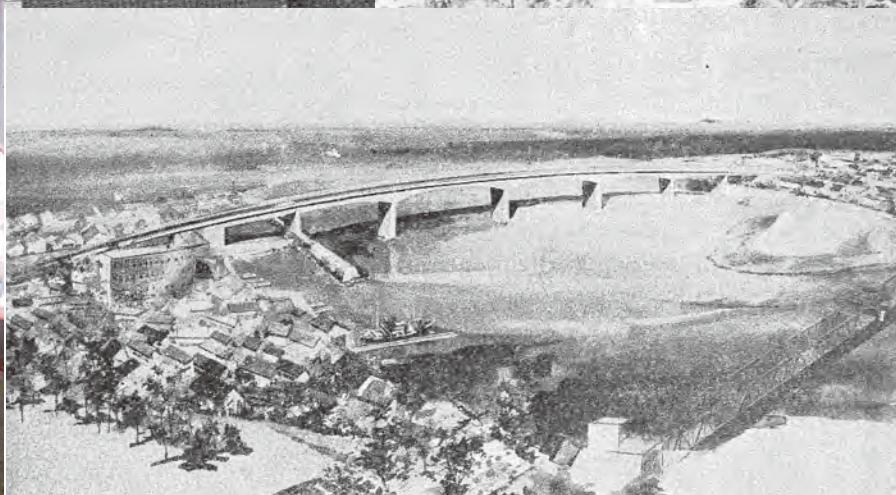
こうした時代にあって、地方議会が果たすべき使命は一層重要となっております。市議会は、行政運営に対する監視・評価という本来のチェック機能を十分に果たすとともに、市民の皆さんに最も身近な「熟議と協働の場」として課題を共有し、ともに考え、ともに行動する“開かれた議会”的な議会の実現を目指してまいります。

また、議会としても、デジタル化の推進や情報発信機能の強化、ICTを活用した議会運営の効率化など、時代の要請に即した新しい取り組みに果敢に挑戦するとともに、議員定数の減少を機に、各議員がより機動的かつ柔軟に地域の現場に足を運び、市民の皆さんと直接対話を重ねながら、地域課題の解決に向けた政策形成力の向上に努めてまいります。

本年も、市民の皆さんから信頼され、身近に感じていただける議会を目指し、全議員が不断の自己研鑽を重ね、より良い議会改革と健全な市政運営の推進に一層力を尽くしてまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

結びに、令和8年が、皆さんにとりまして健康で希望に満ちた、実り多き一年となりますことを心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

(特集) 昭和から令和へ受け継がれるもの



昭和から令和へ 88年受け継がれる“まちの味”

令和8年、昭和元年（1926年）から数えて満100年を迎えます。戦争や災害など幾多の試練を乗り越え、人々が大きな変化と復興を遂げてきた昭和という時代。その歩みを振り返る中で、地域に根ざした営みの尊さが改めて感じられます。

今回は、昭和12年の創業以来、変わらぬ味で地域に愛され、まちの人々のお腹と心を満たしてきた、うどん店の白石朱美さんに、これまでの歩みや今後の抱負についてお話しを伺いました。



左から、清水國子さん(78)、白石朱美さん(72)、森川えつ子さん(76)



清水國子さんは手延べ歴60年

創業からの歩み

子供を多く授かった両親。外で働くことが難しかったことから、昭和12年にうどん店を始めました。三男六女の9人姉弟も手伝い、家族総出で店を切り盛りしてきました。24歳で嫁いだ朱美さんは、病院の栄養士として働いたのち、3人目の子どもを授かる前に退職し、義母のキクさんから教わりながら店を手伝うようになりました。2代目のご主人は7年前、66歳で亡くなりましたが、代々受け継がれてきた味と営みを今も守り続けています。

手延べで生み出す唯一無二の麺

白石うどんの特徴は、一般的な手打ちとは異なり、手で一本一本延ばす「手延べ」製法。生地をこねるのに4~5時間、麺を延べるのにさらに4~5時間、仕込みだけで約10時間を費やす手間ひまのかかる作業です。機械では出せない滑らかなのどごしとやわらかなコシを生み出すため手作業にこだわり、出汁はいりこ仕立てで、創業時から変わらぬ味を守り続けています。

変わるものとの姿

創業時から地域に親しまれ、昭和の時代には、働く人々が多く立ち寄っていたといいます。近年はコロナ禍が落ち着いた頃から外国人客が増え、今では来店客の半数を占めるほどに。特に韓国からの観光客が多く、「韓国のガイドブックに掲載されているらしい」と白石さん。日本らしい“おもてなし”をしようと提供したミカンがSNSで広まり、訪れる人がさらに増えたそうです。

受け継いだ味とおもてなしを胸に 創業100年へ前進

「私は元祖ではないので自信はありません」と、常にお客様の声を大切にし、昔と味が変わっていないかを確認することも。今後については「体力が続く限り今のやり方で続けたい。創業100年を目指してがんばります」と抱負を語ってくれました。

「帰省した方が食べに来てくれると本当にうれしい。お客様の笑顔が励みです」と、受け継いできた味とおもてなしの心を胸に、これからも変わらぬ思いで店に立ち続けます。

令和8年は、昭和100年を記念して、昭和から令和にかけて受け継がれてきた味や技を取り上げる企画をお届けします。どうぞお楽しみに！



生前の義母キクさん

祝 全国大会出場

帝京第五高等学校が全国高校バスケットボール選手権大会（愛媛県予選）で初優勝



創部1年目での快挙達成

9月13日(土)から開幕した第78回全国高校バスケットボール選手権大会愛媛県予選。11月2日(日)、伊予市民体育館で行われた決勝戦で新田高校に勝利し、全国大会出場を決めました。春の大会で敗れた相手でしたが、選手たちはその悔しさを力に変え、チーム一丸となって最後まで粘り強く戦い抜き、悲願の優勝を果たしました。部員は1年生10人、創部1年目での快挙です。

全国大会での初戦は、山梨学院高校と12月23日(火)に対戦します。

戦 繢

	対戦校	結 果
1回戦	シード	-
2回戦	シード	-
3回戦	東温	121-57
4回戦	新居浜東	108-64
準決勝	松山工業	101-79
決 勝	新田	88-85

